

市民の暮らしを守り、 寄り添うことができる 一番身近な議員として



4年間の議員活動を通じて思うことは、人と人とのつながり、結びつき、絆がやはりいちばん大切だということです。市民のみなさまからのご相談や要望を市役所の職員の方とともに考え、住みやすいまちづくりをおこなう。職員の方に高圧的であったり、押しつけたりでは前に進めません。チーム旭として、今後も市民のみなさまの要望や願いを叶えられるよう、心を込めてがんばります。困っていること、不安なこと、不便なこと、どうぞお気軽にご相談ください。

-とこよだまさきの4年間の足跡-

①干潟小学区・神西地区の水路への転落防止柵の設置について
以前から要望をいただいておりますが、今年の夏、水路全域に柵が設置されました。



②干潟小学区・干潟公園前の道路側溝工事について

雨が降ると道路が冠水してしまい、歩くことができないくらい排水状況が悪かった場所です。何十年にもわたって区から要望をあげていましたが、このたび全区域の7割が工事を完了しました。工事後は大雨が降っても冠水しなくなり、排水問題が解決されました。未完了の区域についても工事を進めています。



③干潟小学区・八軒町地区の未舗装道路の舗装について

雨が降ると道路の陥没部に水が溜まり、車や歩行者は避けて歩かなければなりません。通学路として毎日利用している児童がいます。何十年にもわたって区から要望をあげていましたが、このたび事業化し、道路に隣接する住民を対象とした説明会を開催しました。昨年中に市職員による対象世帯への戸別訪問が完了し、税務調査も完了しました。いよいよ念願の舗装工事に着手します。



④ボランティア活動

毎年、ひがた保育園のさつまいも畑の準備、苗植え体験、収穫体験や除草作業を行っています。



干潟小学校周辺の草刈り作業も長年にわたって行っています。他にも、草が生えて見通しが悪くなってしまった道路や歩道の草刈りを市内いたるところで行っています。

干潟小学校周辺での小学生の朝の登校見守りも4年目になりました。

毎朝、先輩方と共に子どもたちの安全安心を見守っています。

※他にもまだまだ載せきれませんが道路の陥没やのり面の崩壊、雑草の繁茂、ごみの不法投棄、遺棄された猫の相談などなど、市民のみなさまが日々の暮らしの中で困っていることを行政へつなげる活動を365日、地域を問わずに4年間おこなってきました。小さなことをコツコツと解消していく、その積み重ねがしいては旭市全体を良くしていくことにつながると信じています。

とこよだまさきのまちづくりビジョン

① 儲かる産業、儲かる農産業
の創出を目指します

進学等で旭市を離れた若者が地元へ帰ってきたくなる働き場をつくります。外資系企業やIT、医薬、リモ

ートワーク企業などを銚子連絡道路の延伸にあわせて誘致を行い、若者がわざわざ都会に就職しなくても旭市で暮らしていける環境を生み出します。

全国の農業者の8割以上を占める中小規模農家が日本の食を支えています。後継者が見つかりにくい現状と高齢による終農が相次ぐ状況を踏まえ、成田空港の機能強化による輸出向け農産物の新たな特産品開発をします。労働負担が軽く、単価が良く、高齢者や女性の方、移住者でも参入しやすい農業を目指します。旭市農産物のブランド化と差別化を推進していきます。

② 人口減少を絶対にストップ！

出会い⇒結婚⇒出産と子育て 近隣市とくらべると子育て支援は充実している旭市ですが、出会いの前に若者が市内にいないでは結婚、出産、子育てにはつながりません。若者が働きなくなる働き場を増やし、将来、エッセンシャルワーカーになる若者向けの給付型奨学金の創設、創業支援金の充実と後継者への各種支援、アミューズメント施設の誘致など、田舎だけどもあま楽しく暮らしてると若者に感じてもらえるまちづくりを推進します。

③ 防災力の強化によって市民の生命、身体、財産を守ります

東日本大震災から14年。あの時の恐怖と甚大な被害を受けたことが薄れつつある昨今ですが、首都直下地震、千葉県東方沖地震、南海トラフ地震はいつか必ず発生します。旭市では地域防災計画に基づき、市民の生命と財産を守るための対策を構築しています。しかしながら、巨大災害の発生当初は公助の手は届きにくいので、自助、共助による防災対策が必要です。共助の核となるのが自主防災組織であり、都市部では防災意識の高まりから多くの組織が設立されています。

干潟小学区では自主防災組織を2016年に立ち上げ、避難訓練や研修視察を行い、学区民の防災意識の向上と啓発に努めています。今後は市